

2020年度事業報告

1. 基本方針

日本包装学会の目的は、「包装にかかわる各種材料、加工、機械、システム、製品、検査、流通、デザイン、心理、環境、社会等の科学及び技術の進展をはかり、もって学術文化の向上と産業の発展に寄与すること」であると会則に規定されており、その目的を達成するために、①研究発表会、研究会、講演会、講習会及び見学会等の開催、②会誌その他本会の目的に関係する資料の発行、③関連機関・団体との連絡及び協力、④その他本会の目的達成に必要な事業を行ってきています。

2020年度は、これまでの活動実績を踏まえ、「産官学各分野の均衡ある活動促進」「学生や若手研究者・技術者に魅力ある学会へ」「国際化の推進」の方針が立てられましたが、年度初めからのコロナ禍により「With-Corona における学会活動のあり方」について「走りながら苦闘した」1年間でした。特に年次大会の会場現地開催が見送られ予稿集発行による「紙面開催」となり、すべてのシンポジウムが中止になりました。ほとんどの委員会活動は継続的にリモート形式で開催せざるをえませんでした。そのことでポストコロナにおける学会運営の新たなノウハウを積み上げることもできました。また、充実した内容の学会誌が例年と同様に発行され、学会創立 30 周年記念事業としての研究委員会「若手の会」による包装用語集がまとめられ、まもなく刊行できることとなりました。

2. 学会運営の経過

2-1. 通常総会

- 開催日:2020年8月12日
- 方式:学会メーリングリストに基づく議案書配布、Web 上での議案採決
- 議決権者数:79、委任状数:294、有効議決件数:373

2-2. 理事会

2020年度は2回の開催となった。

- 第89回:2020年6月19日 メール開催
- 第90回:2021年3月25日 メール開催

2-3. 会長補佐会議

2020年度は2回の開催となった。

- 第98回:2020年4月16日 メール開催
- 第99回:2020年12月9日 メール開催

3. 各委員会の活動

3-1. 編集委員会

(1)学会誌へ次の特集を掲載した。

- 包装開発とデザイン思考(Vol. 29 No. 2)
- 包装材料の分析Ⅱ包装材料の分析・評価、現象の解析とその手(Vol. 29 No. 3)
- 包装エキスパート集団としての編集委員会(Vol. 29 No. 4)
- 公設試験研究機関発 包装関連技術シーズ集Ⅲ(Vol. 29 No. 5)
- 環境に配慮した食品包装、食品包装用材料(Vol. 29 No. 6)
- 資源循環型社会構築に向けた容器包装のリサイクル技術の新潮流(Vol. 30 No. 1)

(2) 編集委員会を以下の通り6回開催した(第177回～第182回)。

- 第177回:メール審議2020年5月12日～5月19日
- 第178回:オンライン会議2020年7月6日
- 第179回:オンライン会議2020年9月8日
- 第180回:オンライン会議2020年11月11日
- 第181回:オンライン会議2021年1月14日
- 第182回:オンライン会議2021年3月11日

3-2. 企画委員会

COVID-19 禍のため当該年度の全てのシンポジウム開催を中止とした。感染拡大対策および準備のための各委員の行動が大幅に制限されたことが主な理由。委員長が中止案内文をWeb ページに掲載(2020年4月30日、および11月6日付)

COVID-19 禍への対応方法について議論し、また2021年度の開催実現のための準備を進めるため、企画委員会を3回開催した(第132～134回)。2020年6月1日～15日(一部議題について7月10日まで)は、メール審議形式。10月8日および2021年2月5日は、Zoom システムによるオンライン形式。

3-3. 研究委員会

4つの研究会(バリア材料、輸送包装、包装とIoT、若手の会)が活動しており、それぞれの活動状況は次のとおりである。

(1) バリア材料研究会

COVID-19 禍の状況下、2020年度のバリア材料研究会の開催を見合わせた。次回、第25回バリア材料研究会開催方法を模索中。

(2) 輸送包装研究会

輸送包装ディスカッション2020開催完了(2020年9月18日、Zoom オンライン形式にて)。合計16名参加、段ボール構造体緩衝材の設計をテーマとして参加者同士で情報交換を行った。

(3) 包装とIoT研究会

具体的なテーマ見出せず、COVID-19 の影響もあって今期は活動実績無し。

(4) 若手の会

用語集の2021年出版に向けて編集作業中。

- 2020年11月5日にアイコー企画印刷株式会社と打ち合わせ。見積もり要請など。
- 2021年2月16日に事務局を通じて、理事会メンバーに用語収集協力要請。
- 2021年3月24日にアイコー企画印刷株式会社と出版に向けた作業スケジュールに関する打ち合わせ。

3-4. 大会運営委員会

COVID-19 感染症の拡大が深刻化し、収束が不透明な状況が続く中、日本包装学会第29回年次大会の現地開催を中止とし、予稿集発行による紙面開催とした。その後も、感染症拡大の収束がみられず、第30回年次大会は、初めてのオンライン開催とすることに決定し、様々な課題を一つずつ解決しながら、準備を進めている。

- 臨時委員会 2020年 4月24日 メール審議
- 第226回 2020年 6月16日 メール審議
- 第29回年次大会 紙面開催
 - 参加登録者数:77名
 - 発表数;42件(口頭25件、ポスター17件)
- 第227回 2020年 9月29日 メール審議
(以降 第30回年次大会準備)
- 第228回 2020年10月20日 メール審議
- 第229回 2020年11月 2日 メール審議
- 第230回 2020年12月 7日 Web会議審議
- 第231回 2021年 1月12日 Web会議審議
- 第232回 2021年 2月12日 Web会議審議
- 第233回 2021年 3月 9日 Web会議審議

3-5. 広報委員会

(1)Web関連

学会主催催事(シンポジウム・年次大会・研究会)の開催案内と参加受付をwebページにて行い、会員に告知メールを発信した。以下の事項についてwebページの公開、もしくは内容の改訂を実施した。

- 随時:協賛、後援している催事
- 学会誌の発行時:最新号の目次
- 年次大会終了時:維持会員リスト、過去の受賞者リスト、事業報告、事業計画
- 年末:学会表彰授賞者募集案内
- 年度の切り替わり時期:学会誌掲載後1年以上経過した論文

(2)東京パック出展対応

東京ビックサイトにてTOKYO PACK2021が2021年2月24日～26日に開催された。期間中、書籍販売とパンフレットの配布を実施した

3-6. 国際交流委員会

IPS'21の開催について行わないことを決定した。IPSは海外から専門家を招聘し、対面で行うべきとの意見もあり翌年度以降に行うこととした。

3-7. 学会賞等選考委員会

COVID-19 感染症防止のため、2021年3月23日に Zoomオンラインで選考委員会を開催、慎重に審議を行った結果、次の通り決定した。

(1)日本包装学会賞(推薦2件)

- 椎名 武夫(しいな たけお) 千葉大学
 - 業績名称:品質および環境負荷を考慮した包装の最適化に関する研究
- 松井 利郎(まつい としろう) 九州大学
 - 業績名称:におい成分の食品包材への収着挙動に関する研究

(2)日本包装学会奨励賞(推薦無し)

- 該当者無し

(3) 日本包装学会論文賞(対象論文4件)

- 波多野 諭志(はたの さとし) 神栄テクノロジー(株)、斎藤 勝彦(さいとう かつひこ)
神戸大学
 - 論文タイトル:初速度を考慮した落下高さ換算手法

(4) 日本包装学会功労賞

- 荒木田 真(あらきだ まこと)
- 春日 敦子(かすが あつこ)

3-8. 財務委員会

- 2020年度決算及び2021年度予算の作成
- 毎月の財務状況の確認

3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として学会活動を運営した(詳細 学会運営の経過参照)。

以上のとおり、報告致します。

斎藤 勝彦	(会長)
中嶋 隆勝	(副会長)
田中 幹雄	(副会長)
志水 基修	(編集委員長)
北澤 裕明	(企画委員長)
川口 和晃	(研究委員長)
岡村 賢吾	(大会運営委員長)
宮田 剣	(国際交流委員長)
竹村 彰夫	(学会賞等選考委員長)
東山 哲	(財務委員長)
牧 伸行	(広報委員長 兼 総務委員長)
野田 治郎	(監事)
坂巻 千尋	(監事)